

標 題 新たなコーティング種子による水稲直播が拡大の手応え！

(ダイジェスト)

春作業の軽減や生産コストの削減を目的に取り組んだ新たな水稲直播について、苗立ちが安定しており、春作業の軽減効果も確認され、今後の拡大が期待されます。

水稲の担い手においては、作付面積の急増により、移植期後半の早生品種になると移植作業の時間や育苗スペースが確保できないため適期の移植が難しく、本県では近年、育苗箱数の削減を目的とした高密度播種苗移植によりこの改善が図られています。

直播はこの課題の解決に一層有効であるものの、苗立ちが不安定で伸び悩んでいました。こうした中、近年民間により開発された酸素供給剤と併せて殺虫剤と殺菌剤をコーティングした種子（商品名「リゾケアXL」、以下「R種子」という。）は、これまでの方法と比べ苗立ちが安定しており、全国と県内双方において導入が進んでいます（令和6年本県：91ha、全農調べ）。

今年度、農産担当者では農山漁村振興課の「生産コスト削減技術展示ほ」を活用して、4カ所においてR種子の技術的な有用性や春作業の軽減効果等について検証したところ以下のとおり好結果を得ました。



写真1 播種作業（出雲）

- ・ 苗立数は、43～68本/m²で目標（60本/m²、R直播マニュアル（全農））よりやや少なかったが、4カ所とも概ね均一に出芽し、その後は移植並みの生育量を確保した。その結果、ほ場収量は移植の平均収量と比べ81～108%で大きな減収はなかった。
- ・ 播種作業に係る延べ労働時間は、移植作業と比べ0.43～1.60hr削減された。なお、春作業全体で見ると、耕起、代かき等のほ場準備作業は移植と同様であり、育苗に係る時間（種子予措～育苗：3.2hr（農業経営指導指針））が減る分大幅な削減となる（表1）

・ 展示ほを担当された農業者からは、「育苗が省け運搬作業もなくなり、移植時の苗継ぎもない分人役が減った」等好印象で、更なる技術向上に意欲的であるとともに、面積拡大の意向が聞かれた（以上の数値等は各農業部により調査）。

表1 直播の播種作業にかかる労働時間と軽減効果（/10a）

農業部	直播			比) 移植作業			延べ時間の差
	時間	人数	延べ時間	時間	人数	延べ時間	
	hr	人	hr	hr	人	hr	hr
安来	0.40	1	0.40	1.00	2	2.00	-1.60
出雲	0.26	3	0.78	0.24	5	1.20	-0.43
雲南	0.17	1	0.17	—	—	—	—
大田	0.20	1	0.20	0.50	3	1.50	-1.30

今後は、苗立ちの更なる安定化や、生育に合わせた本田管理技術（水管理、病虫害雑草防除等）のブラッシュアップを図るとともに、ドローンの活用といった省力化技術を取り入れ生産コストの削減を目指します。併せて、経営（全体への）改善効果（移植期の前進化による平均反収の向上等）を検証し、モデル農家の育成を図ります。